

随筆

輝く栄光の蔭に埋もれるもの

米沢 敦 (W20)

明治、大正、昭和、そして平成へと歴史は着実に流れてゆきます。その中で私たちの母校も、此所御器所ヶ丘に同窓生諸兄の思い出を多く刻みつつ工業技術の先端に輝いていますが、とにかく華やかな歴史の蔭には埋もれてゆくものもあるのは常です。世が平成に変わったのを機会に、毎年3月が来ると思い出すことを諸兄に訴え、善処方の名案をお願いしたいと思います。

それは昭和20年3月19日の出来事です。

母校の伝統ある校舎が貴重な研究資料や機器と共に戦禍に消えてしまったことは周知の出来事で、目撃者も多く、随所に記録が残されています。

しかし、その校舎とともに運命を共にした学生、稲垣隆、横井山英三、両君のいたことは、ご存じないかたが多いのではないのでしょうか。

現代では到底考えられないことですが、戦時下のこととて、両君は学生でありながら命令に従って宿直の任に就き、その任務遂行中に殉死

したのでした。

現代流に言えば正真正銘の公務災害死の筈です。ところが、何処の主催であったか一周忌頃に慰霊祭が行われただけで、その後、この二人の死は、公の場で報いられることのないまま、大学ならびに工業会関係者の記憶からも消え去ろうとしているのです。

もちろん、終戦直後の混乱状態下では何もできなかったと思います。また、寡聞の私が聞き漏らしているだけかもしれませんので、誰が、どの様にすべき等と追求しようというものではありません。

しかし、戦後の平和な時代が蘇り、戦没者には叙勲があり、学徒動員・勤労動員中の犠牲者にも顕彰・慰霊等のおこなわれている時代でありながら、単なる事故死の場合と同様に、歳月と共に関係者からも忘れ去られてしまっているであろうか疑問を感じるのです。

大学の施設は発展的に模様替えされてゆく中

《通 信 (抜粋)》

【学校罹災状況】

3月19日午前2時より5時頃迄の空襲に際し、本校も前後3回投爆を受け、最初2回は鎮火に成功せるも第3回目には焼夷爆弾・爆弾の投下あり、本校及び工化教室より火を発生、宿直及び駆付の校長以下、職員・生徒の懸命の活動も空しく、校舎及びその内容品は大部分焼失した。完全に残存せるは強電実験室・電気実習室・化学実験室・紡織科実験室・航空格納庫・物置及び三協会館の7棟。

御真影は無事安全な場所に奉還することを得たのは不幸中の幸いであった。

当夜の宿直者中、尾藤助教授は重傷を負い、第2部2年稲垣隆・同1年横井山英三の両君は、工化地区を防衛中、任に斃るるの惨事をみたのは哀悼に堪えない。1月3日の空襲の折、本校も敵弾を受けたので従来の防衛措置を一層強化整備していたが、遂に米鬼のため40年の歴史ある本校を灰燼に帰せしめられたのは痛恨の到りである。職員生徒にも雇した者が相当数あるが更生に健闘せられつつある。

で、好運にも戦禍から免れた建築の一部を記念に保存することも行われている現在、それらの建物を必死で守ろうと活躍しつつ遂に斃れてしまった私たちの同窓生をそのままにしておいてよいのでしょうか。

たとえ建造物は改築されようとも、彼らの魂は大学の地に母校の発展を見守りつつ眠っているに違いありません。

在学中の死亡のため工業会名簿には記載されず、大学関係者の故人名簿にもたぶん漏れているのではないかと推測される状態では、やがて彼らの行為すらうもれてしまうに違いありません。

まして、当時の模様が脳裏に深く焼き付いたまま、静かに仏を守って居られる遺族のご心境

を拝察するとき、何等かの形で、稲垣・横井山両君の死に報いることはできないものかと願う一人です。

公的配慮が無理ならば、せめて工業会の名においてでも顕彰か慰霊の催しを行っていただけないのでしょうか。

上記資料は学校の罹災直後に、学校より学徒動員で派遣先にいた教官・学生に対して配布された通信文ですが、前述の稲垣・横井山両君のことが明記してあります。

通信文の現物は当時以来、私が所有していますが、他の資料とともに名工大に寄贈し、現在は図書館で保存していただいております。

◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉ 文 芸 ◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉

さまよ
「彷徨い」

さまよい、迷い
先は見えない
夢を手に入れたことはないけれど
まだ希望を持っているなら
それだけで
生きてゆくには充分だ

とまどい、惑い
闇に見えない
たくさんの涙を流したけれど
まだ笑顔を持っているなら
それだけで
生きてゆくには充分だ

あなたと、わたし
あふれる思い
ひとことも話さず別れたけれど
また出会いが待っているなら



竹村 誠二 (A57)

それだけで
生きてゆくには充分だ

悲しい、思い
逃れられない 重い荷を
背負い生きてゆくけれど
まだ自由を持っているなら
それだけで
生きてゆくには充分だ

情 報

ネットワーク

平成23年度 東京支部総会レポート

今年（平成23年）は3月11日の東日本大震災による未曾有の被害により、日本社会をどう進めていくか数々の進路変更を迫られる年であった。そのような中、東京支部総会も震災復興を誓う意味を含め、平成23年11月10日にKKRホテル東京で開催された。

午後6時半頃にゆったりとBGMが流れるなか、昨年と同じ規模の約150名の参加者が会場に入った。

この数年恒例となった済木氏（D35）の名司会のもとに、まず張田東京支部長（M43）の挨拶があった。東京支部のポテンシャルは非常に高くそれを生かすべく、大学の研究成果を東京に本社のある企業に活用する仕組みを試みていたが震災で中断してしまった。しかし今後もチャレンジすべきとの熱い思いが語られた。続いて来賓として、母校から高橋学長、辻教授（M46）、多賀教授、名工会本部から篠田理事長（M33）、二杵常務理事（K39）の紹介があった。

学長からは「大学」と「同窓会」の連携を重点項目とし、校友会館の2階に「卒業生連携室」を設置したこと、会員増強を図り寄付により海外武者修行をサポートしていること。また、東海地区の高校生へのアンケートから名工大は地域社会に大いに貢献しているというイメージが強いことが話された。理事長からは、名工会の新しい一般社団法人化の事業目的の第一に「大学支援」を設定したこと、そのためには費用も必要なので小額でも良いから寄付を習慣としてもらいたい旨の挨拶があった。

総会の議事として坂井氏（C42）、松浦氏（M47）、飯田氏（W33）による会務報告、会計報告、会計監査報告が要領よく進められたあと懇親会に移った。

乾杯は次期支部長に内定している阿部氏（D41）の発声で懇親会が始まり、各科ごとにテーブルが分かれていたが、「科」の垣根を越えた談笑が和やかに行われた。

また、懇親会最大の呼び物である名工大管弦楽団OBによる演奏があった。今回で三回目となるが、加藤氏（E39）のイニシアティブで二人の女性団友を含む九名の方々から成る大編成の楽団となった。モーツアルトとバッハが華やかに演奏されて会場からは生演奏への賞賛の声があちこちで聞かれ、総会全体が大いに盛り上がった。

弦楽四重奏の紅二点の二人もパーティー会場で会員と気軽に歓談し彼女達の周りは花が咲いたような雰囲気であった。今回は大震災からの復興を願って「ふるさと」が特別に演奏され胸にジーンと来るものがあり参加者の多くが歌詞を口ずさんでいた。

途中、衆議院議員の伴野豊氏（C58）も忙しい国会の合間を縫って駆け付け、建設委員長としての苦労話を披露するなど懇親会も盛りだくさんの内容を持つものであった。

倉島氏（W38）の采配による追加した料理もすっかり平らげられ、あっという間に予定時間が過ぎ、管弦楽団と合唱団OBの先導による全員での校歌斉唱があった。

今年は各科も若い人の参加に力を入れており、今までにない活性化の芽が感じられた。その象徴として最後は今回参加者の最年少である上田氏（A20）が万歳三唱の音頭を元気よく行った。やはり若者の力はバイタリティーがあるなと感心させられる中、なごり惜しくも来年の再会を約してお開きとなった。

記：原田龍次（C45）



平成24年名古屋工業会東海地区新年互礼会の開催報告

新年早々の平成24年1月7日（土）に120余名が集い、東海地区新年互礼会を開催しました。場所は例年大学会館1階の学生食堂で行っていましたが、今年は改装中のため浩養園に移しました。互礼会は12時より、まず水谷名古屋支部長の挨拶があり、次に篠田理事長の挨拶（写真）、そして高橋学長の挨拶（写真）を賜りました。乾杯の音頭は伴野豊代議士（C58、愛知8区選出）の発声により行われ、和やかな懇親（写真）に入りました。

会場の都合により例年のイベントである餅つきができず、代わりにマグロ解体ショー（写真）が行われ、好評でした。単科会ごとの写真撮影、くじ引きと進み、次期名古屋支部担当の名窯会役員の紹介、そして最後に二杵常務理事による中締め後に解散しました。参加いただきました皆様には、お礼申し上げます。

記：緑 静男（D42）



高橋学長の挨拶



篠田理事長の挨拶



懇親会



マグロ解体ショー

大阪支部 23年度「秋季歴史探訪の会」開催報告

(築城400年を記念して伊賀上野城と芭蕉翁の郷を訪ねて)

好天に恵まれた平成23年11月26日（土曜日）、総勢36名（内、ご夫婦6組）が、チャーターバスで梅田（大阪）を出発。約2時間半かけて伊賀市に到着。

お城を訪ねる前に日本三大仇討ちで有名な「鍵屋の辻」に立ち寄る。その後すぐそばの「伊賀上野城」に入り、お城を管理する団体の専務理事であり、又名工大で“お城博士”としてご高名であった故城戸久先生のご親戚でもある福井健二氏から「築城の名手藤堂高虎と伊賀上野城」と題した講演を伺ってから天守に登城し、ここでもいろいろとご説明を受けた。地元で“城代家老”と言われる方だけに大変興味深いお話が伺えた。天守を後に芭蕉翁生誕300年を記念して建てられた翁の旅姿を模したといわれる「俳聖殿」を見学して昼食会場へ。

昼食の後、地元の“語り部”と言われるガイド氏に案内され市内へ。先ず最初に訪ねたのは史跡「蓑虫庵」、芭蕉の高弟であった服部土芳の庵跡で、芭蕉が庵開きに詠んだ句「みの虫の音をききにこよ草の庵」から名づけられた、街

中にもかかわらず静かなたたずまいで昔を偲ばせた。次に向かったのは「栄楽館」という江戸時代から続く建物、昭和年代まで伊賀市の名士、文人が集った料理旅館の跡とあって、白壁門構えの土塀とお城から移したと言われる築山の外観に加え、屋内は数奇屋風の作りで、竹をモチーフにした欄間や建具等の凝った細工が目を惹いた。最後に訪ねたのは「芭蕉翁生家」。芭蕉が29歳になるまで過ごした生家で、当時の暮らしぶりが再現されており、離れは芭蕉が処女句集「貝おほい」を執筆した「釣月軒」で、西門前には芭蕉が故郷を想って詠んだ「古里や臍のをに泣としのくれ」の句碑が建てられている。

ここを最後に伊賀上野に別れを告げ、途中で奈良県山添村にある「鍋倉溪」に立ち寄る。ここは大小の黒々した岩が、幅平均25m、長さ650mにわたり、まるで溶岩の流れのような極めて珍しい景観に目を見張った。

日も暮れ初めてきたので、この奇観をあとに帰阪の途につき無事帰着した。

記：藤原 康宏（E36）



名古屋工業会大阪支部・兵庫支部 平成23年度秋季見学会報告

12月3日（土）、伏見の玉乃光酒造株式会社の見学会を開催しました。8学科から総勢29名（奥様1名を含む）もの参加者がありました。

日本酒の製造工程を直接肌で感じながら間近で見学でき、今まで知らなかった本物の日本酒の魅力が分かる見学会になりました。

まず最初に、第12代社長丸山恒生様直々のプレゼンテーションがありました。玉乃光酒造は年商10億円程のこじんまりとした会社ではありますが、歴史は江戸時代まで遡ります。

延宝元年1673年に紀州和歌山で創業、戦争で工場が被災したことから、戦後は水の良い伏見で再開されたそうです。農家を指導して作った特別な酒米を使うなど、原料にこだわった純米酒を主力商品とされています。

工場見学では、現場担当者が熱心に本物の日本酒の良さを説明されました。精米から見学しました。特殊な精米機で心白（酒米の真ん中の白い部分）を球状に残してゆくのですが、お酒の銘柄によっては玄米の50%以下になるまで精米することもあるそうです。

次の工程では、蒸気の通りをよくするPPビーズの入った巨大な枕を使い、精米した米を蒸米にします。そして、温度管理された昔ながらの木造建屋の中で、竹の簀子に麻布を敷き蒸米から米麴を作ります。この麴を食べさせていただいたところ、ほのかに甘い味があり、虫眼鏡で見ますと黒っぽくなっており、蒸米に麴が出来ている様子が分ります。

もろみの仕込み槽では、12、3度に温度管理され、ぶくぶくとする炭酸ガスの泡とともに発酵が進み、お酒に変わってゆく様子を見学しました。

見学の最終工程では、フィルタープレスで絞りたてのもちっとした厚めの酒粕をつまみながら、炭酸ガスを感じる出来立ての濃い新酒を試

飲させていただきましたが、言うまでもなくその味は最高でした。酒飲みにとってはまさに至福の時でした。

本見学会後、工場近くの居酒屋で玉乃光酒造のいろいろな銘柄を飲み比べしました。同社営業部長の方がお酒の飲み方、銘柄の違いなどを説明されました。

日本酒業界は毎年売り上げが減少し厳しい状態が続いていますが、醸造アルコールを添加せず、お米100%でお酒をつくる玉乃光酒造は毎年売り上げを伸ばしておられるそうです。

「ホンマもの」が何か分らなくなっている世の中ですが、酒は日本の食文化の一つですので、皆で守り続けて行きたいものです。

また、本見学会に先立って、緑会幹事長緑静男様（D42）の講演会「蒸留・蒸発が年金生活での趣味的仕事にならないか。」が行われました。緑様は、今まで培ってきた蒸留に関する知的財産などを社会に役立たせるため、退職後の現在も活躍されています。そして目標に向かって活動されており、国内だけでなく海外の会社にもコンタクトされているそうです。その体験談などとともに講演されました。退職間近の方や退職された方々に退職後の新しい生き方の参考になったと思われます。

雨の予報だったにもかかわらず無事に本見学会を終えることが出来て幸運でした。

記：高原喬二（D46）



第48回「ごきそサロン」報告

2011.12.14（水）午後6時30分からいつもの八重洲倶楽部で「原子力事故と今後のエネルギーについて」と題して織田 満之氏（E39）による「焦眉の話」がありました。誰もがきわめて関心のあるテーマだけに満員の40名が参加しました。内容は長年原子力発電に携わってきた当事者であっても客観的でフェアな説明だったためか多くの参加者は素直に理解できたように見受けられました。

そのため終了後「ぜひ次回も続けてやってほしい」と司会の三山さんから要請があり織田氏も「皆さんからの質問に答えるかたちでなら」と快く引受けてくれました。

私・加藤が「目から鱗」だったことは原発は水素「爆発」事故を起こしたのではなく中へ向かって縮む「爆縮」事故を起こしたことです。高校の化学の教科書にあるとおり水素は点火すると「爆縮」して水が残ります。だから事故後の写真で建屋が黒こげの焼損をせず、建物の鉄骨も内側に曲がっていたのでしょうか。あれだけの建屋が破壊されても死者がでなかったことも「爆縮」と関係あるのかどうか私には判りません。

もうひとつ日頃感じていたことがひとつ確認できたのは今回の事故で「放射線被曝」による死者はゼロであること、今後も被曝による健康被害は多分でないだろう、ということです。ひねくれ者の報告にもう少し付き合っていただければ

「二度とあっては困りますが、東海第二発電所から8kmのところに住む私は福島と同じような事態になっても避難はしたくない」と思います。

理由は慣れない避難所や仮設住宅で健康を害したり運動不足になるよりパイロットやレントゲン技師並の被曝をしながらでも今の住環境で気持ちよく天命を全うしたいからです。

TVやマスメディアの扇情的な情報に一喜一憂してノイローゼになりそれが原因でガンで死ぬより多少の放射能で免疫を活性化させたいと思います。

またLNGや石炭、石油の方が原子力よりまだましだという議論もおかしいです。米国のLNGの油井の周りは環境破壊を絵に書いたようで、目を覆いたくなります。受入れた日本のLNG基地が津波で壊された時には、比重が重いガスで辺り一面が火の海になるリスク等も要注意です。

日本はCO₂の排出規制を諦めたのでしょうか？いろいろ議論はありそうです。次回報告させてもらえればもうひとつ書かせてもらいます。今も原発で事故処理に当たっている人達のことと今後の日本の原発についてです。

記：加藤 勝英（E39）



名古屋工業会の本部関係会議情報（平成23年12月～24年2月）

○運営委員会 2月14日(火)18:25～

議題1 平成24年度事業計画について

事業計画案を提示し、一部修正のうえ承認された。

2 平成24年度行事予定について

年間行事予定表を提示した。

3 役員改選について

・連携強化委員長から、第二部実務型教員の募集結果を報告

・広報委員長から、広報委員長・幹事のあり方及びアンケートの実施について説明

・会員増強委員長から、新入生の諸納金制度の導入に伴い、今年度の出前勧誘を中止することについて説明

○役員推薦委員会 2月14日(火)18:05～

議題1 理事長、副理事長及び常務理事候補者について

候補者を提示し、承認された。

第19回ごきそ会展（名古屋工業大学OB絵画展）2011開催

本学卒業の絵画を愛好する仲間が集まり毎年絵画展を開催しております、今回で第19回を迎え10月18日(火)から23日(日)まで名古屋の伏見にある電気文化会館5階の東ギャラリーで開催いたしました。本学関係者始め900名近くの多数の方のご来場をいただき好評の中で終了することが出来ました。今回の出展者は新入会員1名を含めて22名で、その中には残念ながら今年度中にお亡くなりになられた3名の方の遺作も含まれております。点数は79点で、作品内容は130号をはじめとして30号以上の大作も増え、作品画材も油彩、水彩、日本画、パステルに色鉛筆画など多彩になり、ご高覧いただいた皆様から大変高い評価をいただきました。これからも充実した絵画展にし、本学のPRにつなげればと強く感じております。

なお、この会を存続していくために絵画を愛好される皆様（特に若い方）のご入会を期待しております。ご入会希望者や絵を描いている方の情報がありましたら事務局までご一報くだされば幸いです。

次回は第20回の節目を迎え平成24年10月16日(火)から21日(日)まで同じ場所で開催予定です。是非ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

記：福田一豊（A36）

今回の出展者名

加藤 邦彦（K28）	日比野正憲（E28）
梶田 英夫（A29）	富田憲次郎（A29）
加藤 眞昭（A31）	神谷 義夫（A31）
栢本 良三（A31）	早川 茂次（A33）
本田 暎幸（D33）	青山 良穂（A34）*
有木 喬（C34）*	清水 昭（A34）
前田 隆（C34）	山田 銑一（K34）
伊藤 禎治（A35）	加藤 桂吾（A35）
木下 鈞一（A35）*	枋尾 宗昭（A35）
福田 一豊（A36）	平川 史朗（A38）
木戸 眞人（A40）	高橋 秀郎（M41）○

*遺作 ○新入会員

連絡先

中部事務局 福田 一豊

〒465-0053 名古屋市名東区極楽2-184

TEL:052-702-1504 FAX:052-702-0097

E:mail k_fu@d2.dion.ne.jp

関東事務局 加藤 桂吾

〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町802-2

大倉山ハイム7-305

TEL/FAX 045-777-0216



会場入口



会場風景

平成24年度 兵庫・大阪支部合同企画 姫路城大天守閣修理見学施設 「天空の白鷺」と天台宗「圓教寺」見学開催のお知らせ

(社)名古屋工業会 大阪支部支部長 木越 正司 (C44) 兵庫支部支部長 楠田修三 (A50)
兵庫支部副支部長 香取英明 (F58)
担当 武藤崇史 (EJ②)

拝啓 初春の候、会員の皆様には、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

名古屋工業会兵庫支部・大阪支部春の合同企画として、平成21年度～26年度にかけて行われております国宝姫路城の大改修の見学と、ラストサムライのロケ地、西の比叡山として知られる天台宗圓教寺の見学会を開催させていただきます。是非とも奮ってご参加ください。

敬 具

記

1. コース 開催日（4月22日 日曜日）

①全日コース：圓教寺のある書写山までは路線バスとロープウェイを利用します。

9:00 姫路駅前（JR姫路駅北側神姫バス北口バス乗り場）集合……圓教寺（見学）……

（昼食：姫路城周辺）……県立博物館（見学）……天空の白鷺（見学）……16:30頃 解散

②午後半日コース：

13:00 （姫路駅北側神姫バス北口バス乗り場）集合……県立博物館（見学）……

天空の白鷺（見学）……16:30頃 解散

★希望者を対象として、17:00頃より懇親会を開催します。参加費（別料金¥3,000）。

2. 参加費（昼食費および圓教寺の協賛費¥500は費用に含まれておりません）

①全日コース：¥2,000

（往復バス代・往復ロープウェイ代・県立博物館入場料・天空の白鷺入場料含む）

②半日コース：¥1,000（県立博物館入場料・天空の白鷺入場料含む）

3. 募集人数

①全日コース、②半日コースあわせて35名

4. その他

①ロープウェイ駅から圓教寺まで、緩やかな山道を20分程度歩いていただきます。

行程が厳しい方は、別途¥500をお支払いいただければ、寺のマイクロバスに乗車できます。

②パソコンをお持ちの方は下記HPをご覧ください。

・天空の白鷺（姫路城大天守閣修理見学施設）：<http://www.himejijo-syuri.jp/>

・圓教寺：<http://www.shosha.or.jp/> <ご希望の方は写経体験ができます>

5. 申込先（締切日 3月31日）

下記の情報を幹事まで送付ください。電子メールまたは郵便。

①所属支部名 ②氏名・年齢（家族参加者含む） ③卒業年度・学科 ④郵便番号・住所

⑤自宅電話番号 ⑥携帯電話番号（当日の連絡先） ⑦希望コース ⑧懇親会出欠

宛先：電子メール muto0121@yahoo.co.jp

郵送 〒565-0816 大阪府吹田市長野東27-50 武藤 崇史 宛

不明点のお問い合わせは、電子メールまたは 090-1768-1408 まで。

「新旧の歴史を訪ねて京都洛中に行く」

大阪支部 平成24年「春季歴史探訪の会」開催ご案内

(社)名古屋工業会大阪支部 支部長 木越正司 (C44)
事業委員会 委員長 三木敏裕 (E48)
「集いの会」担当 田中禎一 (E36)、藤原康宏 (E36)

昨秋の歴史探訪の会は「築城400年を記念して伊賀上野城と芭蕉翁の古跡を訪ねて」のテーマで三重県伊賀上野の町を探訪、好天に恵まれ楽しい一日を過ごしました。

今回の「平成24年春季歴史探訪の会」は旧くは平安京から新しくは懐かしさ一杯の蒸気機関車を訪ねてベテランのガイドさんに導かれて京都の町を歩きます。全行程（約9キロメートル）を徒歩で巡ります。

昼食は行程中のホテルで和食をご用意しておりますので、お弁当の必要はありません。

入拝観は「二条城」「壬生寺大念仏狂言鑑賞」「元島原遊郭内の角屋（すみや）もてなしの文化美術館」「梅小路・蒸気機関車館」を予定しています。詳しい行程、アクセスは後日下見の後、ご連絡致します。尚、このご案内は「名古屋工業会大阪支部」のホームページでもご覧いただけます。

記

1. 日 時：平成24年4月28日（土）午前10時集合、午後5時半頃解散予定（雨天決行）
2. 集合場所・時間：京都市地下鉄東西線「二条」駅改札口 午前10時集合
3. 行 程：
京都市地下鉄東西線「二条」午前10：00……勝負事の神様「出世稲荷」……古を偲ぶ「史跡：平安京・大極殿跡」……大政奉還の舞台となった「二条城」入城拝観……平安京造営時の祈祷の苑池「神泉苑」……昼食（13：00）：アークホテル内「味舞」にて和食……「新撰組屯所跡」……「壬生寺」（重要無形民族文化財：壬生大念仏狂言）鑑賞（約1時間）……元島原遊郭内の「角屋もてなしの文化美術館」入館……「梅小路蒸気機関車館」入館（16：30）……解散午後5時半ごろ：J R「京都」駅／近鉄「京都」駅
4. 参 加 費 用：お一人 4,500円
(上記団体入拝観料、ガイド氏謝礼、昼食代、保険料すべて含む)
5. 参 加 人 員：名古屋工業会会員およびご家族、ご友人（30人程度）
6. 申し込み締め切り：3月31日（土）
7. 申し込み先：藤原 康宏（E36） E-mail y-fuji@kcn.ne.jp TEL：0743-78-6000
8. 申し込み記入事項：尚、前回の伊賀上野にご参加頂いた方はお名前だけお知らせ下さい。
① 氏名： ② 勤務先（OBの方は元）： ③ 住所：保険付保のため必須
④ 学科・卒業年次： ⑤ TEL／FAX： ⑥ E-mail：

平成24年度 尾張支部総会のご案内

本年度の支部総会を下記の通り開催いたします。特別講演は母校・大学院・プロジェクト特任教授・藤本英雄先生にお願いしました。皆様多数のご参加をお待ちしています。

1. 日 時：平成24年4月14日（土）14時～18時30分
2. 場 所：稲沢市民会館 小ホール（稲沢市正明寺3-114 電話0587-24-5111）
3. スケジュール：①支部総会 14:00～14:35
 ②特別講演 14:40～15:40
 『ロボティックス・ハプティックスと技の伝承・感性品質
 －日本のものづくり指針への話題提供－』
 講師：名古屋工業大学大学院プロジェクト特任教授 藤本英雄 先生
 ③ミニコンサート 15:45～16:45
 ソプラノ・金原聡子さん、ヴァイオリン・鈴木 絢さん、ピアノ・日比野梅子さん。
 【注】曲目はクラシック。毎年大好評です。
 ④懇親会 17:00～18:30
 コンサート出演者にも参加していただき歓談。自己PRの時間もあります。
4. 参 加 費：正会員 3,000円 会員(会費未納者) 4,000円 初参加者 2,000円 家族(懇親会参加) 2,000円
 ただし、特別講演およびミニコンサートのみご参加の場合は無料です。
5. 申込方法：正会員の皆様には平成24年2月に文書で案内しました。案内同封の葉書で3月31日までにお申し込み下さい。案内未着の場合は次の所へお問い合わせください。
 〒492-8008 稲沢市赤池町2306 名古屋工業会尾張支部 玉田欽也（W32）
 電話：0587-32-0829 ファックス：0587-34-5122

ごきそパズル
(前回の答え)

1	3	2	3	1	2	1	3	5	4	3	2	3	1	4	1	2
2	5	4	5	4	3	5	4	6	1	5	1	4	5	2	3	4
1	6	3	2	1	2	1	2	3	2	3	6	2	1	4	1	5
4	5	1	4	3	4	5	6	5	4	5	1	4	5	3	2	3
2	3	6	2	5	1	3	2	3	1	2	6	3	2	4	6	1
4	5	1	3	4	2	4	1	4	5	3	1	5	1	5	2	4
1	2	4	2	1	6	3	2	3	1	2	4	2	4	3	1	3
4	3	1	5	3	5	4	1	5	4	5	1	3	1	2	5	2
1	2	4	2	1	2	6	3	2	1	2	4	2	4	3	4	1
3	5	1	3	4	3	4	1	4	3	6	1	5	6	1	2	3
1	4	6	5	2	1	2	5	2	5	4	3	2	3	4	5	1
5	3	2	1	3	6	4	1	4	3	2	5	4	1	2	3	2
2	1	4	5	4	2	5	3	5	1	4	1	2	3	4	1	4
4	3	6	2	1	3	1	6	2	6	5	3	5	1	2	5	2
1	2	1	3	4	2	5	3	1	3	2	6	4	3	4	3	1
3	4	5	2	5	3	1	4	6	4	1	3	2	1	2	5	2
1	2	1	3	1	4	2	3	1	3	2	5	4	5	4	1	3

ごきそでパズル

国名抜け文

下線部にリストの国名をすべて入れて
意味の通る文にしてください。

問題

唐突で申し訳ない。今私は _____ にいる。
 普段は至って _____ ア派の私だが、パズル漬けの日々に疲 _____
 の空気を吸うためにしばらく休暇を _____ とにした。
 泊まっているのは、知人か _____ すめされた、朝ご _____ ズナブルな価格で食べられるホテルだ。部屋の広さはちゅ _____ からも、家具の _____ が工夫されており、広く感じる。我が家よりも立 _____ 取りだ。土か _____ かも味があって良い。ここらでは最も歴史の古 _____ ドマーク的存在らしい。 _____ りなん。
 今日は午後から市内を貸し _____ で回る。すごい渋 _____ だ。どの車もギリ _____ 間距離を取っている。これ _____ ーがあっても _____ イとは進めない。
 この地区は治安が悪く、荷物をかっ _____ うと狙っている輩がいる。女性なら _____ にも注意だ。と言ってるそばから財布がない！まさか _____ んを超えて逃げ去る男の影が見える。どこの _____ だ。追いかけるが見失う。 _____ は気をつけよう。
 や _____ ばらが痛むと思ったら、さっき転んだときにどう _____ つを打ったらしい。ちょっと頭痛もする。これはもっ _____ が悪いときだ。
 空は夕焼け色に _____ たりはもう薄暗い。霧も出てきて視界 _____ やりしている。
 ホテル近くのレストランで夕食。テーブルには _____ ソースやワインビネ _____ どが所狭しと置かれている。せっかくの料理が口に合わず、メインのさ _____ け食べる。
 食後は現地で _____ った友人 _____ ホールへ。ピアノ演奏のチャールス _____ 流れている。すこ _____ ろが良い。
 そろ _____ 限が迫るので、ホテルに戻ろう。
 寝るまでは日記を書 _____ すの予定を立てたりして過ごす。日常を離れると、何気ない生活が寧 _____ わせだったと気づく。
 いよいよ帰国。お土産は迷ったけ _____ ーにした。
 ではまた、つ _____ う日まで、サン _____ イバイ。

《リスト》

イタリア	キューバ	スイス	トルコ	ブルネイ
イラン	ギリシャ	スリランカ	トンガ	ベナン
インド	キリバス	ソマリア	ハイチ	モナコ
ウクライナ	ケニア	ソロモン	バチカン	モロッコ
ガーナ	コンゴ	タイ	パナマ	ラオス
カナダ	サモア	チリ	パラオ	ラトビア
ガボン	ジャマイカ	ドイツ	パラグアイ	レソト
ギニア	シリア	ドミニカ	ハンガリー	ロシア

解答は次号に掲載します。

パズル：稲葉直貴（EJ13）作

平成24年度 東京支部エクスカーシヨン案内

恒例のエクスカーシヨンの計画を立てましたので奮ってご参加願います。

今回は、山梨県にある忍野八海、河口湖、静岡県の白糸の滝等を巡る富士山名水巡りとしてバスツアーを企画しました。

1. 日 時：平成24年 5月12日（土曜日）雨天決行

2. 集合場所：東京駅八重洲南口

3. 集合時間：午前 8時00分

4. 募集人員：上限なし

5. 参加会費：4,000円（予定）

6. コース概要（時間は予定）：

東京駅八重洲口出発

08：10

〈バスにて移動：首都高→中央自動車道→河口湖 I C→国道139号→

富士忍野さかな公園〉

富士忍野さかな公園（山梨県立淡水魚水族館） 9：45～10：20

忍野八海（霊峰富士より湧き出でる八つの泉） 10：30～11：20

河口湖富士ビューホテル

11：50～13：00

昼食（富士ビューホテルでランチバイキング）

富岳風穴（溶岩流の造形美）

13：30～14：00

朝霧高原道の駅（富士眺望絶景ポイント）

14：30～15：00

白糸の滝（国の名勝・天然記念物）

15：30～16：10

白糸の滝出発

16：10

〈バスにて移動：国道139号→西富士有料道路→富士 I C→東名高速→首都高〉

東京駅八重洲口到着・解散

18：30

7. 申込み方法：（個別案内は致しません。）

・下記の幹事に、電話、FAXなどでお申込み下さい。

・申込み時に、卒業年次、氏名、連絡先、電話番号をお知らせ願います。

8. 申込み先：

C42 坂井利充 Tel 03-5756-9800 FAX 03-5756-9809

D44 岡本利郎 Tel 03-3226-4701 FAX 03-5360-6856

C47 小林 保 Tel 03-5835-1711 FAX 03-5835-1712

A61 工藤利昭 Tel 03-6229-7299 FAX 03-5561-2327

デザイン 編集 印刷

ならアオイ・システムに!

- お望みの制作物を予算に応じてデザイン・編集・印刷までトータルにお受けします。
- コンサート等、予約管理システムによる座席の管理やチケット発券も承ります。是非一度ご相談を!!



株式会社 アオイ・システム

〒460-0022 名古屋市中区金山 5-5-20 日興ビル 4F

TEL 052-881-1151 FAX 052-884-8522
E-mail takasu@aoisys.co.jp

企画から製本まで承ります。

企画・デザインから製本まで
トータルサポートでお値打ち!!

デザイン

名刺・ハガキ・封筒・チラシ・カタログ・パンフレット・ポスター・定期刊行物
etc.
タイプ・電子組版時代から築き上げられたノウハウはDTPにおいて、特に不得意とされる組版の書籍・表組みの良物も得意分野です。

印刷

カラー印刷・2色刷り・1色刷り・特色刷り・品質・部数・ご予算に応じて提供いたします。
Macintoshのみならず、ワード・太郎等の通席オフセット印刷に適さないWindowsデータの出力ノウハウもありますのでご相談ください。

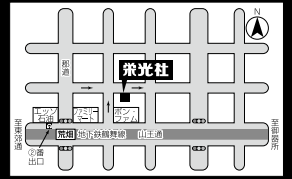
製本

目次・体裁・装綴・語句・併用・小説・エッセイ・雑誌・絵本等、自分の本を作りたいとお考えの方。
各種マニュアル・広報・配布文書・名簿・クラブ・サークル誌・宣伝物等、製本でお困りの学生・法人の方、少ロットよりお手伝いします。

総合印刷の 栄光社



〒466-0014 名古屋市中区東郷町一丁目42番地
TEL (052) 741-7701
FAX (052) 741-7703
URL <http://www2.ocn.ne.jp/~eik/>
E-mail eikou@thela.ocn.ne.jp



特許業務法人 英知国際特許事務所

EICHI Patent & Trademark Corp.

所長 弁理士 岩崎 孝治

—— 知財の総合コンサルタント ——

東京本部 〒112-0011 東京都文京区千石 4-45-13
TEL: 03-3946-0531(代) FAX: 03-3946-4340
神奈川支部 〒224-0006 横浜市都筑区往田東 1-23-2
TEL: 045-532-3827 FAX: 045-532-3828
浜松支部 〒430-0806 静岡県浜松市中区木戸町 5-11
TEL: 053-461-5662 FAX: 053-460-6027
山形支部 〒994-0026 山形県天童市東本町 1-2-20
TEL: 023-651-6102 FAX: 023-651-6102
<http://www.eichi-patent.jp>

(株)ブライダルは 名古屋工業大学会員の皆様の「結婚」を応援します。

34年の実績 (一橋大コースetc)



左のQRコードにて携帯サイトに簡単にアクセスできます。
(一部対応しない機種がございます。)

名古屋工業大コース

これをご覧になったとおっしゃってくだされば

会員サポート費 **50% OFF**

ブライダルコース ¥220,500 ▶ ¥189,000 etc.

エクセレントコース ¥378,000 ▶ ¥330,750 etc.

●ミドル・シニアの方々のプランにも特典がございます。

価格は登録料・会員サポート費・月会費(12回分)の税込総額です。

- 成婚率は業界トップクラス。
- 入会審査有り
- 都庁・官公庁・有名大学などでメディア展開。
- お客様満足度NO.1のお世話を目指し少子化問題にも貢献。

株式会社 **ブライダル** お問い合わせ (月曜定休) ☎0120-415-412
<http://www.bridal-vip.co.jp>
名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F
Network 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

建設 不動産コンサルティング 調査 設計 企画



株式会社 前田組

代表取締役 前田 靖

〒466-0031 名古屋市中区紅梅町3-3 円昭ビル2F TEL052-852-2225
<http://www.maeda-gumi.com>

株式会社 円 昭

代表取締役 前田由紀夫



〒466-0031 名古屋市中区紅梅町3-3 円昭ビル2F TEL052-841-2701
<http://www.enshow.com>

広報委員会

委員長 樋口 真弘 (W61)
幹事 山本 勝宏 (ZW⑥)

秀島 栄三 山口 啓 (C49)
北川 啓介 (A⑧) 安楽 崇広 (M⑨)
小坂 卓 (EJ⑥) 廣瀬 光利 (E50)
朝倉 睦美 (W54) 野中 久義 (D⑨)
本多 沢雄 (ZY⑥) 道家 清正 (Y30)
平野 春好 (K50) 米谷 昭彦 (F60)
杉江 紘 (F院44) 横山 淳一 (Fb⑥)
三田 晴伸

会誌「ごきそ」のバックナンバーは、名古屋工業会のホームページ
<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>でご覧いただけます。